

図書紹介

◎21世紀の環境企業と森林—森林認証・温暖化・熱帯林問題への対応

(小林紀之著 A5版 316pp. 日本林業調査会, 東京, 2000.9 刊行, 定価 2,500円)

20世紀のめざましい産業の発達は物の豊かさをもたらし、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会を作り出し、それに伴う弊害が地域、地球レベルの環境問題を生み出した。そして新たな時代の創世が期待される21世紀は、心の豊かさに視点を置いて環境に調和した循環型社会への転換が求められている。本書はそうした転換を可能とさせる重要な枠組みである持続可能な森林経営の理念に基づいて、企業戦士として環境問題に先駆的な取り組みをしてきた著者の豊かな経験と幅広い学識を通して、環境と経済の両立を可能とする企業経営のあるべき姿を描き出している。まさに時期を得て刊行された必読の書である。

本書は最初にプロローグとしてねらいが述べられている。それは21世紀における環境企業としてのあり方についてである。本論は5つの章から構成され、第1章では、持続可能な森林経営の達成に向けた国際動向とその具体的制度としての森林認証等について世界の動向や日本での取り組みの状況が紹介されている。第2章と第3章では、ISOの環境マネジメントシステム及びFSCの森林認証・ラベリング制度に焦点をあて、現状と課題についての詳細な解説と、わが国における普及可能性について分析が加えられている。特に前者では、わが国の森林分野ではじめて住友林業(株)が認証を取得した経緯や具体的な取り組みの状況等が紹介されている。取得に直接関わってきた著者の経験を踏まえているだけに、システムや制度の内容だけでなく環境企業としての考え方を理解する上でも大いに参考となる。第4章では、地球温暖化問題に焦点をあて、CO₂を吸収・固定する再生可能な資源としての森林や木材の評価と、温暖化防止に向けて取り組むべき課題を指摘している。特に、森林によるCO₂吸収が削減目標の算定に加えられることが決まった京都議定書の成果と問題点、それが今後の海外植林事業の展開に与える影響について検討が加えられている。第5章では、温暖化とも関わりの深い熱帯林減少の現状分析とともに、熱帯林再生に向けた同社プロジェクトのリーダーとして著者が長年取り組んできた研究の経緯と成果が紹介されている。そこには「顔の見える環境企業」のあるべき姿を読みとることができる。最後にエピローグとして20世紀の「負の遺産」の反省に立って、持続可能な森林経営に向けた新たな枠組みと企業の果たすべき役割について見事な論理展開でしめくくられている。(井上敏雄)